

謹賀新年

明けましておめでとうございます

日本の政治、経済、社会の現況は「迷」の一字に象徴されていますが、その司令塔たる民主党連立政権は「劣」であることが明白となりました。特にトロイカ3首脳は「信無くば立たず」の片鱗すらなく、憂慮される事態です。国内問題等は失敗しても決意と実行力があれば手直し可能と思われそうですが、外交防衛、国際経済等対外関係につきましてはその失敗は国の存亡に直結し、逸失国益、信頼については回復は容易ではありません。

かの吉田茂氏は「国際感覚のない民族は滅びる」と警鐘を鳴らしておりましたが、冷戦崩壊後ようやく発展の機会に恵まれた昨今のアジア、東アジアは圈内各国ばかりでなく世界中の大国の利害が絡み合う、大きなチャンスがあると同時に大きなリスク(軍事優先の北朝鮮、中国、ロシア)も内蔵する不安定地域となっています。この1年間に見えた定見のない民主党政権の外交政策、陣容ではこの複雑な難局に対応するのは至難の技です。この際超党派で次期参院選まで2年半緊急避難的に大連立を組み、外交は経験豊かで諸外国に人脉ある老練政治家、スタッフに任せ、内政は中堅若手の改革派に切磋琢磨させ、60%以上の多数の国民がほぼ理解し、個人的には多数の国会議員も基本的には方向性がほぼ同じ年来の国家的課題(憲法改正、集団自衛権、成長と財政再建、自由貿易協定と農業再生、社会保障の見直しと消費税率アップ、少子高齢化福祉対策、参議院の第二院たる位置付け等)に政争の具とすることなく超党派で取り組むべきです。その解決策を超党派で国家目標として虚心坦懐に議論、設定し、そのロードマップを作成し、それを実行するにはどの政党が一番適任かをテーマに2年半後民意を問う衆参同時選挙であれば国民にとっても大変有意義で判り易く、健全な未来志向の議会民主主義政治の復活となるのではと期待したいものです。

さてJIFASは本年度で設立17年目を迎えることとなりました。これもひとえに会員並びに関係各位の御支援、御協力の賜物と深く感謝申し上げます。食糧安保が叫ばれる昨今、我が国といたしましても自給率のアップと共に、消費者にとって最も関心の高い、安全、安心、トレサビリティという問題にも応えなければなりません。今般、その長きにわたる研究開発の成果として、世界に発信できる最先端技術「複合閉鎖循環式養殖システム」の小規模実用化プラントを今春着工できることになりました。進捗状況は会報その他で順次お知らせいたします。本システムが食糧問題解決に少しでも寄与しますことを祈念しますとともに、今後とも皆様の変わらぬ御厚情を賜りたくお願い申し上げます。

平成23年1月

国際養殖産業会
会長 北澤 仁



▲ 京都清水寺境内にて